

千代田区立日比谷図書文化館

企画展示

「アートでSDGs

日比谷の森で考えるプラスチックと地球環境～いま、できることから～」

展示を通して高校生の君たちに伝えたいこと



2021 年 10 月 25 日

千代田区立日比谷図書文化館

図書部門企画広報

樋口万季

①展示の経緯

樋口さまご自身が編集ボランティアに携わったことで、各団体との繋がりが生まれたとのことですが、どのようなボランティア活動をなさったのか改めて簡単にお教え下さい。

【回答】千代田区女性史編集ボランティア

2000年に刊行された『千代田区女性史』(3巻、千代田区／編、ドメス出版)の続編を編さんする「千代田区女性史編集委員」に応募し、区民女性からお話を伺い、その生きざまを文章に書き記す「聞き書き」を中心としたボランティア活動です。区民や在学・在勤者から20名あまりが選ばれ、インタビュー技法や原稿作成技法を含む編集委員養成講座を受けたのち、取材する対象者をみんなで多様な観点から偏らないように候補を選びました。そして担当する対象者に直接インタビューして、聞き書きしてまとめていくボランティアです。

働いている千代田区のこと、そしてそこに住む人たちについて、もっと知りたいという思いから応募しました。また、図書館で仕事をしており本に囲まれています、一度、書く側に回ってみたいという思いもありました。

今回、このボランティアで区民女性を障害者福祉センターでインタビューしました。それがきっかけで、そちらの職員さんと知り合い、今回のコラボ企画が生まれました。

■2021年4月5日～4月30日、ECOM 駿河台(千代田区神田駿河台)にて開催

「いま、できることから。えみふるのプラスチックアート作品展」(主催：千代田区立障害者福祉センターえみふる)に参加。

図書館の展示テーマ:「ECOM 駿河台で出会う 図書館と本 ～みんなで地球環境を考えよう～」

https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/information/20210405-2_161/

■巡回展 2021年6月22日～9月6日 日比谷図書文化館にて開催

「アートでSDGs 日比谷の森で考えるプラスチックと地球環境～いま、できることから～」(主催：千代田区立日比谷図書文化館)

<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/information/20210601-ecom/>



②今回の展示の目的・意義

「啓蒙活動」と仰っていましたが、海洋プラスチック問題及び SDGs に関する展示を、図書館にて行う意義について、お考えをお教え下さい。

【回答】 普及啓発活動

早口でお聞き苦しかったですね。恐らく「普及啓発活動」とお伝えしたものだと思われます。公共図書館という誰にでも開かれた学びの場で、別の目的で来館した人にも、展示としてカタマリで見ただけ、展示パネルや紹介する図書や資料を通して、地域の課題や世界が向き合う地球レベルの課題への気づきを促し、関心を喚起して、行動変容につなげてもらう普及啓発が目的です。そうした事により、持続する地域づくり、ひいては地球の持続性に図書館として少しでも貢献することが目的です。

ねらいは、もちろん理解してもらうこともですが、単に理解だけでなく、地球のために新たな行動をしてもらえよう、行動変容につなげることが大きなねらいです。

これを行う意義としては、地域に寄り添う図書館という場で、正解のない 21 世紀的課題に向き合う《社会のための学び》の場、地域の未来を協創する場として機能することだと考えています。特に環境教育や ESD 教育を学校で受けていない、学校を卒業して久しい年齢層への SDGs 的学びの機会提供の場としても、図書館には一定の役割があるのではと考えています。

③展示を通して考えられたこと

今回の展示の準備・開催の中で、海洋プラスチック問題や SDGs の達成についてどのようなお考えを持たれたか、お教え下さい。

【回答】

政府や自治体、メーカーなどの企業や団体、研究者などにより素晴らしい取り組みがたくさんされていることが分かりました。一方で、それが市民に十分に届いていない部分もあるようにも感じました。今回の展示をご覧になって、「レジ袋有料化の裏に、ここまで酷い海の現状があることを知らなかった」とおっしゃる方もいました。これに限らず、情報機関である図書館は情報格差を埋めるためにも、また**関心を広げてもらう**ためにも、幅広い情報提供に務める必要があると感じました。

また、私たちは海やプラスチックごみの、その筋の専門家ではありません。ですから、その専門家であるチームくじら号（JAMSTEC 海洋開発機構の研究者や関係者で構成する）や WWF などとも協力して行い、**パートナーシップ**の中で取り組めたことは良かったです。

また今回、展示では海洋プラスチックごみ問題を扱った本や専門雑誌などを集めて並べました。その中に、海洋生物が海の中でたくさんのプラスチックごみに囲まれた画像があり、それをご覧になった研究者から、そうしたショッキングな画像は合成された可能性もあるとの指摘をいただきました。その真偽のほどはさておき、**情報リテラシー**（情報の正しさを見抜く能力、情報を選択する能力、根拠を確認する能力）はこれからの時代を生きる若い皆さんにとっては特に、必要でしょう。情報が世の中にあふれるなかで、情報を見極める力を養ってほしいと思います。

④課題の解決に関して、子どもたちに思うこと

今回の展示を通じて、10代の高校生に感じてほしいこと、メッセージ等をお教え下さい。

【回答】

課題の解決に関して：

海のことは関係ないと他人事にしないで、誰かが解決してくれるだろうと人任せにしないで、身近にできる**小さな**ことから出来る事を始めてほしいと思います。

そしてあきらめずに、既存の枠組みや、既存の考え方にとらわれず、**大きな**視点で社会や地球を見つめて、解決の糸口を見つけてほしいと思います。

また、SDG sに取り組むことが目的なのではなく、**目的は何か**をしっかりと見つめて、ぶれないでいただきたいです。

今回の展示を通して高校生の君たちへのメッセージ：

プラスチックは人間が発明し、それによって生活が豊かになり、便利になりました。不燃織マスクもアクリル板も防護服もみんなプラスチックです。プラスチックがあるから、たくさんの命が守られています。しかし、放置され捨てられたプラスチックは、最終的には海に流れ込み、2050年の海は魚よりプラスチックごみの方が多いとの予測があるほど、深刻な事態になっています。今回、調べるなかで特に衝撃的だったのは、衣類を洗濯するだけで、大量のマイクロファイバーを海洋に流出しているという事実でした。自分たちが**知らないうちに**海を汚すことに加担していたのです。

ここでとても重要なことは、この事態はほかでもない、私たち**人間**が引き起こしてしまったということで、知らない間に、人間だけの地球ではないのに、私たち人間は海をここまで汚してしまいました。これからの未来を生きる皆さんには、本気で地球のことを考えて、それぞれの立場でできることを見つけて、小さなことからでも実行してほしい、そして、機会があれば、大きなウェーブにしてほしいと願ってやみません。

最後に、今回の展示でも紹介したアメリカの海洋生物学者レイチェル・カーソンの言葉を皆さんに贈りたいと思います。

私たちの住んでいる地球は自分たち人間だけのものではない

レイチェル・カーソン 『沈黙の春』より

以上